大切な人に〝愛〟を伝えませんか

きょう2日は「プロポーズの日」

きょう2日は「プロポーズ（求婚）の日」（6月第1日曜）です。提唱者は日本を代表するブライダルファッションデザイナーの桂由美さん。「大切な人に〝愛〟を伝えませんか」と語る桂さんに、記念日に込めた思いなどを聞きました。

提唱者の桂 由美さん（ブライダルファッションデザイナー）に聞く

プロポーズとは――人生の最後まで支えになる言葉

――「プロポーズの日」に込めた思いは。

桂　結婚に踏み切れないカップルのきっかけ作りになればと提唱したものです。6月に結婚すれば幸せになれるという「ジューン・ブライド（6月の花嫁）」にならって、6月第1日曜にしました。

男性からのプロポーズに憧れる女性は多いのに、相手の男性が決断できず言い出せないケースも多いようですね。「男性よ、もっとしっかりして！」と言いたいです。

――最近は女性からのプロポーズも珍しくないようですね。

桂　私が審査員を務める「全国プロポーズの言葉コンテスト」（NPO法人地域活性化支援センター主催）でも、女性のプロポーズも多種多様になっています。

また、プロポーズもないまま結婚するカップルも多いようですが、もったいないと思います。

――プロポーズを経て迎える結婚は「ゴールイン」である半面、新しい「スタート」でもありますね。

桂　私はスタートとしての意義を大事にしてほしいと思っています。花嫁のウエディングドレスが純白なのは、白が〝出発の色〟だからです。白はどんな色にも変化できる無限の可能性を持っています。その門出を最大のおもてなしの心を込めて祝福したい。そう思って日々、仕事をしています。

――「結婚したら幸せ、結婚しないと不幸」との考え方については。

桂　人生観は人それぞれですが、中には、いわゆる〝食わず嫌い〟の人もいます。しかし、結婚でしか味わえない幸福があるのは確かです。結婚して、子どもを産んで、次の世代に命をつないでいくのも自然の流れと言えるでしょう。そういう意味からすると、結婚してほしいですが、幸か不幸かは断言できるものではないですね。

――未婚、晩婚の原因として「いい人がいない」という声もありますが。

桂　〝運命の人〟は必ずいます。年だからといって妥協する必要はありません。適齢期も人それぞれです。昔は「人並み」ということが何かにつけて優先されましたが、今は「自分らしさ」が大切にされる時代です。

私が結婚したのは42歳の時でした。相手は53歳。晩婚カップルの誕生は、当時とてもめずらしく、世間でも話題になりました。この頃、ようやく私の仕事も軌道に乗り、残りの人生を共にする相手が欲しくなったのです。そんな中で偶然出会ったのが夫でした。出会いからわずか3カ月で結婚を決意。夫にとっては、私とのお見合いが36回目だったそうです。

夫は、どんな時も私の一番の味方でした。心の底から安心できる存在でした。結婚を機に、仕事でもさらに冒険ができるようになり、ますます意欲的になりました。

今振り返って、夫に出会っていなければ、結婚していなかったかもしれません。

――最後に、あらためてプロポーズとは。

桂　私自身が夫から受けたプロポーズは「20年前に会いたかった」というものでした。そこには夫の愛情や誠実さが溢れていました。

プロポーズは、それを受けた女性が人生の最後まで、それを支えに生きていけるくらい、深く素晴らしいものです。皆にも、そうであってもらいたいと願っています。

〝運命の人〟は必ずいる。適齢期も人それぞれ。妥協しなくていい

応募が年々増え、最優秀賞に輝く作品も出てきています。同コンテストは2007年から開催され、今年で第7回を迎えました。

11年の最優秀賞は「水や電気は不足しても私の愛は不足しないよ」。これは、東日本大震災の直後、断水を経験した彼へのプロポーズです。

一方、男性からのプロポーズであっても、「彼女にうまく仕向けられたな」と思うようなほほ笑ましいものもあって、女性誘導型に時代の差を感じますね。

――10年の最優秀賞は「ボクに毎朝、お味噌汁をつくらせてください」でした。

桂　今の世相の反映でしょう。「年の差婚」「子連れ婚」「できちゃった婚」など、結婚のカタチがさまざま出てきて、プ

かつら・ゆみ　1964年、日本初のブライダル専門店をオープン。以来、国内をはじめ、世界20カ国以上でショーを開催。2010年には、世界でわずか4人の全米ブライダルコンサルタント協会名誉会員に。現在、京友禅の伝統美を生かした作品作りに力を入れ、世界の注目を集める。

第7回「全国プロポーズの言葉コンテスト」最優秀賞

「大船に乗ったつもりで私についてきて下さい！」

ハッピナビ info

第7回を迎える「全国プロポーズの言葉コンテスト」が5月30日、六本木ヒルズ展望台（東京・港区）で開催されました。桂由美さんのほか、華道家の假屋崎省吾さん、モデルの森泉さんらが審査員として参加しました。

今年の応募数は、昨年の倍近い2156点。最優秀賞には、未婚者の部に申し込んだ大阪府在住の女性による「大船に乗ったつもりで私についてきて下さい！」が選ばれました。その女性が「私の方が体格がいいので……」とプロポーズの理由を説明すると、場内は温かい拍手に包まれました。

また、優秀作品には、イタリア料理店のオーナーシェフによる「俺の本気のペペロンチーノを食ってくれ！」などが選ばれました。

【告知】結婚の素晴らしさを知ってもらいたいと、桂さんがデザインした婚礼衣装を着た結婚間近のカップル6組がオープンカーに乗り、乃木坂（東京・港区）近辺をドライブする「2013乃木坂JUNE BRIDEフェスティバル」が6月8日（土）に行われます。乃木坂から青山通りや表参道などを経て六本木（同）までを、14時50分から1時間かけて回ります。見掛けたら、ぜひ、祝福してあげてください！